

II 委託研究課題概要

＜研究概要様式＞

【2022年度採択 連携研究スキームによる研究】

課題番号(e-Rad 課題ID):22727130

研究テーマ:「世界の食料供給体制の変化と日本の食料安全に関する研究」
委託研究課題名:「多極化するフードレジームと日本の食料安全保障に関する実証的研究」

1 研究実施期間(西暦):2022年度～2023年度(2年間)

2 予算規模:8,100,000千円(2022年度)

3 代表機関・役職・研究開発責任者
神戸大学 准教授 八木 浩平

4 研究の目的・達成目標

国家を含むアクターの行動の分析が可能なフードレジーム論の視点から、米国、中国、台湾、日本等の食料需給体制を検証し、世界のフードレジームにおける日本の位置づけと課題を整理し、我が国の食料安全保障の確保に資する政策提言を行う。

5 研究の内容および実施体制

① 課題(1) 米国の食料輸出戦略、生産動向、企業行動の解明

穀物・油糧種子・食肉を対象品目とし、資材価格の高騰やロシアによるウクライナ侵攻といった新たな局面における、生産動向や、米国での生産・調達・流通をめぐる企業行動、国家の輸出戦略等を明らかにする。

(東京農業大学国際食料情報学部)

② 課題(2) 中国・台湾の穀物需給構造、関連するアグリビジネスおよび政策動向の解明

穀物・肥料・食肉に主に着目し、その需給動向の変化や、中国の生産者、国有及び民営企業、中央および地方政府の関連機関の行動、消費動向を解明する。また、台湾での大豆等の穀物需給体制を明らかにする。

(横浜国立大学国際社会科学院)

③ 課題(3) 日本の小麦・トウモロコシの輸入戦略、需給動向、企業行動の解明

小麦・トウモロコシに着目し、新興国の経済成長やロシアによるウクライナ侵攻等の状況下における、対象品目の需給動向や、日系商社や製粉製造業者、配合飼料製造業者による事業対応や調達戦略、課題等を明らかにする。

(東京農業大学国際食料情報学部)

④ 課題(4) 日本の油糧種子・肥料の輸入戦略、需給動向、企業行動の解明

ロシアのウクライナ侵攻等が起きる中での、油糧種子の需給動向、総合商社や植物油製造業の調達戦略等を明らかにする。肥料は、中国の輸出政策転換等の不確実性の増大に対するサプライチェーンの対応を明らかにする。

(神戸大学大学院農学研究科)

⑤ 課題(5) 日本の消費者の国産飼料原料・国産肉・代替肉への評価の分析

消費者行動の分析から、我が国の穀物の輸入戦略や食料安全保障と関わる国産飼料原料や国産肉、代替肉の普及可能性を検討することで、日本の食料需給体制の将来像について考察する。

(神戸大学大学院農学研究科)

6 政策研究との連携の意義、期待される波及効果

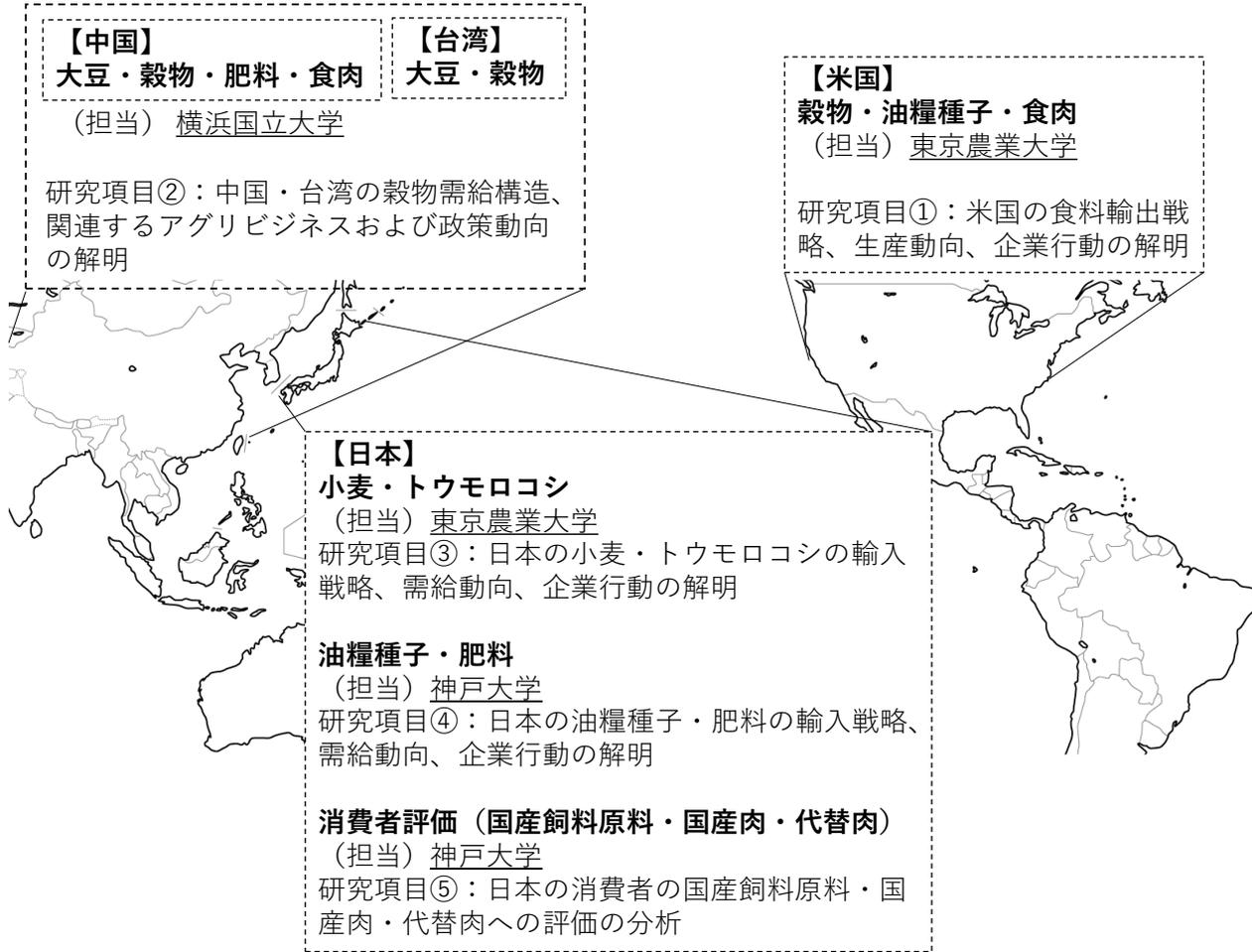
連携の意義は、(1)米国、ブラジル、東アジアといった環太平洋圏を俯瞰する大規模研究を実施できる点、(2)穀物需給体制が多極化する中、新興国と先進国双方を同時に分析できる点の2点にある。これにより、専門家がマクロ的に俯瞰した国際食料市場の実態に係る情報や政策提言を、政策立案者、実務家向けに提供できる。

【連絡先:神戸大学大学院農学研究科(事務課会計係) 078-803-5924】

< 研究概要図 >

委託研究課題名	多極化するフードレジームと日本の食料安全保障に関する実証的研究
----------------	---------------------------------

【委託研究の目的・達成目標】
 国家を含むアクターの行動の分析が可能なフードレジーム論の視点から、
 米国、中国、台湾、日本の食料需給体制を検証する
 →世界のフードレジームにおける日本の位置づけと課題を整理し、
 我が国の食料安全保障に資する政策提言を行う



※各品目について、需給動向、政策を含む輸出入戦略、企業行動等を整理

【政策研究との連携の意義、期待される波及効果】
連携の意義(1)：農林水産政策研究所のブラジル、韓国の研究と連携し、
 環太平洋圏を俯瞰する大規模な研究を実施できる
連携の意義(2)：フードレジームが多極化する中で、
 新興国と先進国双方を同時に分析できる学術的意義を有する
 →期待される波及効果
 専門家がマクロ的に俯瞰した国際食料市場の実態に係る情報や政策提言を、
 政策立案者や実務家向けに提供できる